

ハンドボール

特集

第38回全国中学校大会 男子代表、欧州遠征報告

115
NOV.2009・No.505



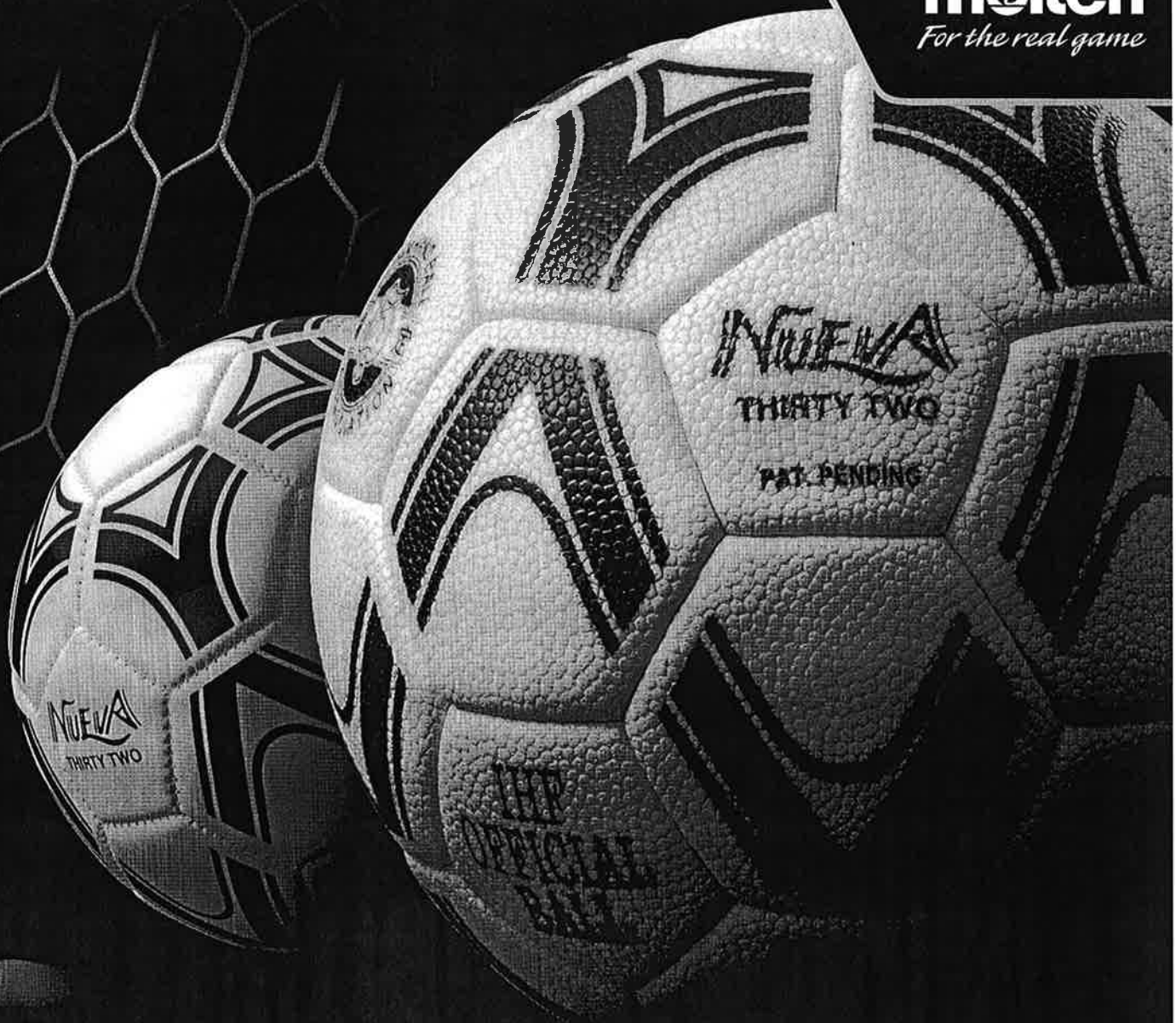
[表紙写真：第38回全国中学校大会・男子優勝のはとり中学・笹川選手：写真提供：スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 検定球

縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ 国際公認球 検定球

縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

創意工夫・一致団結



(財)日本ハンドボール協会常務理事 **伊藤 宏幸**

過密スケジュールの夏期大会も無事消化され、日本リーグが開幕、そして新潟国体、全日本総合選手権といよいよ2009年度も終盤を迎えつつあります。小生も7月には福島県本宮市で開催された全国クラブ選手権大会（東地区）で審判審査委員の一人としてA級審判員の審査、協会役員として表彰状授与等を担当して参りました。

8月は休暇を利用してプライベートで愛知県豊田市で開催されたマスターズ大会、京都でのインターハイ等を見学させて頂きました。どうしても大会役員で行くと、本部席を離れる事が出来ず、観客目線を忘れがちになってしまいます。観客席に身を置きながら、観客や選手、スタッフの生の声を聞く事で、更に様々な課題が見えて来る事があります。

そういう意味においても、時間を惜しまず現場に出て実際に肌で感じる事ができる時間を持つことが必要だと考えております。

さて、この号が発刊される頃には2016年のオリンピック開催都市も決まっていることと思いますが、誘致結果に左右される事無く、日本協会としての課題を着実に一歩ずつクリアして行くことが、重要であると考えています。

総務本部としては、年度当初に掲げた下記テーマをベースに各委員会を中心に地道な活動を推進しています。

総務：事業を滞りなく実行するための諸施策の推進

国際：アジアハンドボール連盟との和解合意に基づいた「アジアの正常化」「アジア地域の発展」をベースにした行動の展開

広報：「ハンドボール競技の注目度の更なるアップ」を踏まえた広報活動計画

財務：日本経済の厳しい環境を踏まえた財務内容の改善と適切な配分

とりわけ財務面では、昨秋からの世界不況の中、一部には景気感が戻って来たと言われているものの、それを我々が感じるまでには、まだまだ至ってないようです。そういう中で常日頃から選択と集中を心がけ、節約に知恵を絞って頂いているのが現状だと思います。

川上専務理事も「お金が無いから何も出来ないと考える前に諸先輩方が創意工夫でコツコツと発展させて下さった努力と行動を、今一度振り返り、それを鏡にハンドボール界全員のチームワークで乗り切りましょう！」と機関誌に掲載されていました。

まさにその通りであると思われます。日本ハンドボール界全体が一致団結し、まずはロンドンオリンピック出場を果たすべく、それぞれの役割を再認識し、ベクトルをきっちりその方向に合わせて行きましょう！

第38回 全国中学校 ハンドボール大会

【最終順位】

	<男子>	<女子>
優勝	はとり中学校(愛知県)	光陽中学校(福井県)
準優勝	明倫中学校(福井県)	大住中学校(京都府)
第3位	三松中学校(宮崎県)	氷見北部中学校(富山県)
第3位	岩国中学校(山口県)	神森中学校(沖縄県)

全国大会を終えて

(財)日本中学校体育連盟ハンドボール専門部競技部長 石塚 廣一

第38回全国中学校ハンドボール大会は、「夢を追い九州で輝く華となれ!」のスローガンのもと、8月22日から4日間の日程で、宮崎市総合体育館・他において中学校チャンピオンを目指す男女各20チームによって、熱戦が展開されました。

「健やかな体づくり」の要素である体の面のみならず、顧問として携わってこられてきた先生方の情熱とその信条が、21世紀を担う豊かな心づくりにも貢献されていたと思われる。大会会場の横断幕やゲーム中の指示の声かけの中にも、技能に裏付けされている心の指導の重要性が感じられました。そんな全国の厳しい予選を勝ち抜いてきた精鋭とあって、その日頃のチーム指導の姿勢が会場での保護者や観戦状況のマナーの良さという面にも良い影響を及ぼしていたかと思えます。また、折しも新型インフルエンザ騒動の最中の運営となり、緊急に対策本部を設置、迅速な対応体制の整備を整えたことにより事なきを得て、大会を無事終えることができました。

さて、今大会を振り返りますと、男女ともに接戦のゲームが多く、3・4点差以内のゲームとしては男子が8試合、あきる野西中(東京)対朝明中(三重)、培良中(京都)対滝尾中(大分)、氷見南部中(富山)対葛西第三中(東京)、香川第一中(香川)対朝明中(三重)、住吉中(山口)対平針中(愛知)、住吉中(山口)対明倫中(福井)、岩国中(山口)対浦西中(沖縄)、明倫中(福井)対はとり中(愛知)、女子

が6試合、浦西中(沖縄)対久保中(山口)、本通中(北海道)対三松中(宮崎)、大住中(京都)対三郷北中(埼玉)、大瀬中(奈良)対鬼怒中(茨城)、香川第一中(香川)対東久留米西中(東京)、氷見北部中(富山)対大住中(京都)など同じ学校が度々出てくるところや、男子の決勝戦は大接戦からも、全国大会としてそれぞれのブロックでの技術・戦術の差がなくなってきていると思われる。そんな中でも特筆すべきゲームは、男子の決勝戦にて前・後半ともに最後の最後まで息詰まる熱戦ぶり、また地元出場枠として男子の三松中が最終日の準決勝にまでコマを進めたことが、大会を大いに盛り上げてくれる要因にもなっていました。選手・監督・コーチのみなさん、おめでとうございます。

現代のハンドボールでは、スピード・テクニック・スタミナの要素が問われ、大変レベルも上がってきています。今大会の中から将来的にオリンピックや世界選手権といった国際的に活躍する選手が多数現れてくれることを祈ります。

終わりに、本大会を開催するにあたり、多大なご指導・ご支援を賜りました関係諸機関・団体役員の先生方、地元の宮崎県実行委員会・中体連、生徒役員の皆様の心のこもった大会づくりと運営ぶりに深く感謝申し上げます、総評と致します。地元の中学生による誠意のこもった運営ぶりは、夏の暑ささえ忘れさせてくれる爽やかさを大会に振りまいてくれていました。誠にありがとうございました。九州ブロック大会・会期最終種目として、見事に九州の華となった大会でした。

Amok Enterprise

旅のはじまりはエモックから
<http://www.amok.co.jp>
 観光庁長官登録一種旅行業1144号
 (社)日本旅行業協会(JATA)正会員

●東京本社 〒105-0003
 東京都港区西新橋1-19-3第2双葉ビル2F
 TEL 03-3507-9777 / FAX 03-3507-9771

●大阪支店 〒541-0047
 大阪府中央区淡路町4-3-8タイリンビル7F
 TEL 06-6203-7999 / FAX 06-6203-7991



6点すべて 写真提供・スポーツイベント社

男子優勝：はとり中学校（愛知県）

はとり中学校ハンドボール部監督 深見忠司

この度は、平成21年度全国中学校体育大会・第38回全国中学校ハンドボール大会において優勝することができ大変嬉しく思っています。これもひとえに、ご支援、ご協力いただいた学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県、そして名古屋市の方のおかげであると深く感謝しております。

春の全国大会では、優勝という最高の結果を納め、新聞や雑誌にはとり中学校ハンドボール部が取り上げられ、私が思っている以上にハンドボール部を取り巻く環境が一変しました。それと同時に、「日本一」という肩書きを背負ってプレーする重圧とも戦っていかねばいけないという実感も湧きました。ただ、登録チーム数が全国一多い愛知県で、もう一度全国大会へ出られる保証はなく、名古屋市の春季大会では、一緒に全国大会に出場した平針中学校との決勝戦では1点差でなんとか勝利するなどレベルの高さを実感し、「もう一度日本一へ」と生徒と共に目標をたて、夏に向けてトレーニングを始めました。

春の全国大会では、DFというよりもOF重視のチームづ

くりを考えましたが、夏はOFだけでは乗り切れないと、DFを含めたトータルバランスを考えました。OFが大好きな生徒たちにとっては、DFは地道な作業の繰り返し、下半身強化から苦しい練習にも歯を食いしばって頑張る姿が多く見られました。

その成果もあり、名古屋市・愛知県・東海大会と徐々にチームのバランスもよくなり、心技体ともにすべてをそろえて全国大会にのぞめたと思っております。

ただ、やはり楽な戦いはなく2回戦の井吹台中学校の粘り強いDFに苦戦し、3回戦では、春の全国大会の決勝戦で戦った神崎中学校に前半途中から5点差にされ、そこからよく追いつけたと思います。準決勝では、岩国中学校。バランスがよく最後まで苦しめられました。そして、決勝戦の相手は明倫中学校。昨年度の優勝メンバーが残り、小学校からの経験も豊富。また、練習試合でもほとんど勝ったことがない…試合が始まる前、生徒たちに「絶対に離されないようにしていくぞ！絶対に諦めるな！」と檄を飛ばしました。その気持ちが届いたのか、フォーメーションを駆使しながら何とかついて行くことができ、後半の途中で追いついたときは「絶



対に勝てる！」と生徒を信じました。そして…タイムアップ！勝利の瞬間をむかえることができました。

最後になりましたが、ハンドボールに出会い、教師になる夢をいただいた沼部先生、稲石先生、いつも先を見据えて話しをしていただける本谷先生、汐路中学校から一緒にハンドボールを指導し、教えていただいた鳥本先生、名古屋のJOCスタッフの先生方との出会いすべてに感謝したいと思います。また、ハンドボールに熱中する自分を支えてくれている妻に感謝したいと思います。

はとり中学校ハンドボール部主将 鬼頭篤史

平成21年8月22日から25日にかけて行われた第38回全国中学校ハンドボール大会に出場し優勝できたことをとてもうれしく思います。優勝できたのは、深見先生、コーチ、保護者、周りの方の協力や応援、はとり中学校ハンドボール部にかかわるすべての人たちのおかげであり、とても感謝しています。

春の全国中学生ハンドボール大会が終わり、頂点に立った僕たちは追われる立場となりました。目指す目標が頂点しかなくなった僕たちは「もう一度日本一へ」というスローガン

を掲げて、再びハンドボールにすべてを捧げていきました。練習はとともきつく、九州勢にも走り負けないように、死ぬほど走り抜きました。そんな厳しい練習をやり遂げることができたのも仲間がいたからこそだと思います。倒れそうになっても仲間が声をかけてくれたり、メンバーから外れた仲間や後輩たちが全力でサポートしてくれたりしたので、最後までやり遂げることができたと思います。僕は、こんなにもすばらしい仲間に出会えたことを誇りに思います。

厳しい練習を日々積み重ね、いよいよ大会が始まりました。こんなにもすばらしい環境の中でハンドボールを楽しめることに、幸せを感じ、伸び伸びプレーすることができました。一戦一戦どの試合も気を抜ける相手ではなかったけれど、深見先生や仲間、今までやってきたことを信じてチーム全員で最後まで戦いました。その結果がこの優勝という形で終わったことを、とてもうれしく思います。

優勝した瞬間は今までの苦しかったことを思い出し、自然と涙が出ました。そして、深見先生に心から感謝したいと思いました。ハンドボールのことだけでなく、人間としても成長させていただいた深見先生に本当に感謝したいと思います。また12月に行われるJOC大会にも出場して、3冠を目指し再び走り出したいと思います。

女子優勝：福井市光陽中学校（福井県）

光陽中学校女子ハンドボール部顧問 高野郁代

あきらめなければ夢はかなう！

平成21年度全国中学校ハンドボール大会におきまして、優勝できましたことを大変嬉しく思っています。これもひとえに、日頃よりご支援、ご協力いただいた学校関係者の方々、保護者の方々、そして県ハンドボール協会、先生方のおかげであると深く感謝しています。本当にありがとうございます

た。

昨年度は、地元福井での全国大会でしたが準優勝に終わり、大変悔しい思いをしました。

思えば閉会式が終わって学校へ戻った時、どん底の自分を救ってくれたのが今の3年生でした。「来年こそは先輩達の間も日本一を目指すので、お願いします」と言ってくれたその一言が、私にもう一度パワーを与えてくれたのです。あの日から1年間、悔しさをパワーに変えて、どんなに苦しくて



写真提供・スポーツイベント社

もあきらめずに生徒たちは厳しい練習に明け暮れました。

今年も昨年同様、長身選手に恵まれた大型チームになりましたが、去年との違いは動ける大型チームを目指したということです。特にディフェンス面に時間をかけて、失点を少なくして速攻で得点できるように意識しました。今大会は特に昨年から試合に出場していたキャプテンの川崎彩花と永田美香の2人が、チームを引っ張りました。川崎のうちに秘めた思いはチームの原動力にもなり、今大会での勢いは常に彼女の先取点でした。初心者永田はオリンピック有望選手に選ばれており、178cmの長身を生かしたディフェンスは、チームの要として数々のピンチを救いました。昨年の立っているだけのポストから動けるポストに成長した彼女の働きが今年のチームには欠かせないものだったと思います。また、サイドの左利き田中里佳も初心者ですが、真面目な練習態度で169cmの身長を生かしたダイナミックなサイドシューターになりました。重久未佳も167cmと腕の長さを生かしたシュートで、今後ますます伸びていく要素もっています。2年生の木村有沙は抜群のスピードとセンスで、チームのバランスをとることができました。サイドの3年生奥村朱実は、脚力を生かし走ってくれました。GKの2年生山本佳子は、2回戦のアップでボールに乗り、捻挫をしながらも大事な場面でチームを救ってくれました。控えの3年生、ピンチを救ってくれたGK橋本咲希、見えないところで努力をしていたサイド岡田春香、チームのために盛り上げ役や仕事をしてくれたポスト片川紗知を加えて、「チーム光陽」はより一層厚味が加わりました。GKの捻挫というアクシデントや組み合わせ、会場の暑さ全てがかえってチームの結束力を強め、全員で「日本で笑えるたったひとつのチーム」を勝ち取ったのだと思います。この優勝を長年心待ちにくださった光陽地区のハンドボール関係者の方々、この優勝が少しでも恩返しになったら嬉しいです。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者のみなさま、影で支えていたさわやかな中学生のみなさん、

そしてこの場をお借りしてピンチを助けてくださった香川第一中の平野先生、トレーナーの田中さん（高松大学）に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

光陽中学校女子ハンドボール部主将 川崎彩花

8月23日から25日まで宮崎県で行われた全国大会。私たちはここで、念願の全国制覇をはたすことができました。昨年は、決勝までのぼりつめながら悔しい思いをしたので、「日本一」になった瞬間は、これまでに味わったことのない感動で、涙が止まりませんでした。

しかし、それまでの練習はとてつらく、自分の気持ちに負けてにげだしたくなることもたびたびありました。でも、仲間を信じてはげまし合いようやく全国大会への切符を手に入れることができました。

宮崎県の会場は、福井と違う暑さで不安もありましたが、常に自分達のために動いてくれた後輩、家族、先生のおかげで気持ちよく試合をすることができました。周りでも支えてくれる多くの人達のためにも頑張らねばならないと改めて感じ、選手の団結力もいっそう強まりました。2回戦からの出場で暑さとの戦いとなり、なかなか思うように身体が動かず、立ち上がり苦戦しました。しかし、その後の試合は自分達の持ち味であるディフェンスと速攻が決まり、最高の試合ができたと思います。

緊張と不安の中、私達の心の中に常にあったのは、先生がいつもおっしゃっている「お前達は日本一練習してきたチームだ」という言葉でした。形勢が不利な時でもその言葉のおかげでみんなが自信をもって戦うことができました。「全国制覇」という最高の宝物をとれたのも、支えてくださったいろいろなの方々のおかげです。それらの方々へ優勝という報告ができたことはとてもうれしく思います。この一生の宝物を胸に、これからさまざまな壁にぶつかった時も、全力で突き進んで生きたいと思います。本当にありがとうございました。

日本代表男子：2009 フランス・デンマーク欧州遠征から

日本代表男子監督 酒巻 清治

8月7日から24日までフランス南部プロヴァンス地方並びにデンマーク・ホーセンス地区に強化遠征を行いました。来年2月に予定されている世界選手権スウェーデン大会アジア予選を勝ち抜くため世界の強豪を相手に現在の自分たちの「立ち位置」を把握すべく、16日間11試合を消化しました。

対戦チームはいずれも強豪チームであり、中でもフランスではモンペリエ、デンマークではBSKシルケボリなど、シーズン直前の「ベストコンディション状態」かつフランス代表カラバティッチ、スロベニア代表カプトチニック、デンマーク代表ニールセン、元代表イエペセンなど世界のトッププレイヤーとの対戦に心を高ぶらせていました。

8月7日にマルセイユ空港へ到着後宿舎となるイストルススポーツセンターへ移動。南フランスプロヴァンス地方独特の陽気な気候とは裏腹に我々スタッフはある意味の「覚悟」をしなくてはなりません。この時期に各国クラブチームとの対戦は本当に久しぶりで、前述したように代表クラスが顔を並べるいわゆるマルチナショナルチームとの対戦は、我々の「立ち位置把握」などという甘さは通用しない相手だと認識していたからです。

今回の遠征の目的は以下の通り設定しました。

1) 遠征の活動を通じて

午前トレーニングと夕方のゲームを連日行なう中で、個人のコンディションをキープできるかどうか。練習→食事→休養の原則をもとに普段とは違った環境下でも柔軟に対応し常にベストパフォーマンスを発揮できなければならない。

2) 個人並びにチームパフォーマンス

[ディフェンス]

- ・6：ODFにおいて大型ラインプレイヤーをいかに抑え込むことができるか。
- ・チームディフェンスにおける各ポジションの「約束事」を徹底できるか。

[オフェンス]

- ・攻守の切り替えを素早くし、マークミスや数的に有利な状況を狙うことができるか。
- ・上記の状況を確実にゲットできるか。
- ・上記の状況を造り出すために個人のパフォーマンスを効果的に活用しているか。

<フランスシリーズ>

トレーニングマッチということもあり、全てのチームがク

イックスタートを多用してきた。各対戦チームの徹底ぶりは見事であった。日本代表の長所である「スピード」が今や世界のトップクラスでは「当たり前」のパフォーマンスになりつつある。

ディフェンスではボディーコンタクトのハードさに「差」が見られた。

<デンマークシリーズ>

フランス同様攻守の切り替えが早く、それに伴いパスワークが速い。

防御→速攻→攻撃→戻りのなかで特に「速攻→攻撃」が非常にスムーズに行われ、フリースローで相手の攻撃を中断しなければ、傷口が広げられてしまう。

ディフェンスはフランス同様ハードコンタクトであるが、日本人選手たちが慣れてきたせいもあるのか、1：1の局面で勝つケースが多く見られた。

3) 総括

スピーディな攻守の切り替えが行われる中、より基本に忠実かつ正確なプレーを実践しているかで勝敗が決まってしまう。もちろんその中で様々な個人・チームの戦術が存在しているのは間違いないが、今回の遠征で訪れた国がひとつは世界チャンピオンもう一つは欧州チャンピオンであることから考えるならば、「世界のトップ」がいかに真剣に日々のトレーニングにおいてそれらを追求しているかがうかがい知れる。

20年間オリンピックから遠ざかっている我々ではあるが、目指す姿勢は常に

(より「強く・速く」)×正確かつ基本に忠実

=ハイクオリティハンドボール

あらためて突きつけられた「現実」である。

4) 今後の強化

シーズンスタートにともない、メンバーの洗い直しと10月・11月に短期間の合宿。

12月全日本総合終了後、年末までの強化合宿を経て1月初旬にロシア代表との合同合宿。2月予選前に欧州にて直前合宿を実施し、本大会に臨みます。

ロンドン予選に向けて世界選手権出場は必要不可欠であります。現在日本が有する最高の戦力を持って闘いたいと思います。引き続き絶大なるご声援を頂きます様、この誌面をお借りしてお願い申し上げます。

試合結果

◆ 8/9（日）

日本代表 23 (11-17,12-15) 32 Nimes (フランス)

フランス遠征の初戦、対戦するチームはフランスリーグ1部の中位に位置するNimes。

前半、日本は河瀬・藤田の連続得点で幸先の良いスタートを切る。しかし、5分過ぎに日本は退場者を出すと連続失点で4対4の同点に追いつかれる。2m級の選手が3名いる高いディフェンスに対してオフェンスでリズムをつかむことができず、4連続失点で4対8とリードされてしまう。その後は武藤、高智らの得点で加点するが前半終了間際にも連続失点を許し、前半を11対17で折り返す。

後半、リズムをつかみたい日本は高智の連続得点で13対18。6分には末松の速攻が決まり16対21。少しずつ点差を縮めて行きたい日本は、メンバー交代を機に相手のディフェンスを崩したいところだが逆にオフェンスでミスが発生、逆に相手に速攻を許し連続失点などで23対32でタイムアップ。オフェンス・ディフェンスでの課題が浮き彫りとなった試合であった。

◆ 8/11（火）

日本代表 36 (18-11,18-11) 22 イングランド

20分ハーフの変則マッチ。第1戦はイングランド代表。2012年のロンドンオリンピック開催のため“ジャイアントプロジェクト”として、各競技から大型選手を集め強化しているイングランド。先に地元モンペリエと戦っているイングランド代表はすでにスタミナ切れの状態。先制点は奪われるものの崎前・前田・新らの連続得点で4対1とリード。その後も武田の連続ミドルシュート、前半終了間際にも武藤・新の連続得点で前半を18対11で折り返す。

後半も単調となったイングランドの攻撃をアグレッシブなディフェンスでミスを誘い、猪妻の速攻や門山のカットイン等で得点を重ね、7分過ぎには25対13としほぼ試合を決める。足が動かないイングランドはラフプレーが目立ち、後半だけで7人の退場者を出す。その間も、広くなったディフェンスを末松が鋭いフェイントからシュートを決めるなど36対22で快勝。日本のスピードが目立った試合となった。

日本代表 18 (6-12,12-15) 27 モンペリエ (フランス)

20分ハーフの変則マッチ。第2戦は地元・モンペリエ。昨シーズンのリーグチャンピオン、フランス代表のカラバティッチ選手等が所属。

試合開始直後から武田が積極的にミドルシュートを狙っていくが、モンペリエの高いディフェンスにゴールを奪うことができず0対2とされる。しかし横地のステップシュートが決まると、速攻から河瀬が得た7mスローのチャンスを末松が落ち着いて決め、2対2の同点。モンペリエが退場者を出し、ここで波に乗りたい日本だが、簡単なパスミスなどがから逆に3連続失点で2対5とされてしまう。中盤以降も高智・岸川らのミドルシュートが決まるものの、パスミスなどで自らチャンスをつぶしてしまい、前半を6対12で折り返す。

後半、GK松村が連続セーブでディフェンスを盛り上げ、豊田の7mスロー、ミドルシュートなど3連続得点で反撃を開始。しかし、前半のミスがひびき、なかなか得点差を詰めることができ

ず、18対27でタイムアップ。動きのスピードに頼りすぎ、パスの精度を欠く試合となった。

◆ 8/12（水）

日本代表 30 (15-16,15-16) 32 Provence (フランス)

フランスリーグ2部・優勝チームプロバンスとの対戦。

試合開始直後、ミスから先制を許し0対2とされるもののすぐに猪妻の7mスロー、武藤のポストシュートで同点に追いつく。中盤も新のスカイプレーや、武田のミドルシュートなどが決まり、13分で8対8の同点。15分からほとんどの選手を入れ替えると、交代して入った豊田・門山の連続得点で10対9と逆転。ここでリズムに乗りたい日本だが退場者を出してしまい、その間に12対13と逆転されてしまうと前半は15対16の1点ビハインドで折り返す。

後半、前田・武藤の連続得点で17対16。7分、相手に退場者がでると、一気に5連続得点で23対20。GK高木の好セーブもあり、点差を広げるチャンスだったがオフェンスでのミスが続く、27対29と再び逆転されてしまう。その後、岸川・崎前の連続速攻、GK高木のノーマークシュートセーブなど、30対29と1点リードするが、試合終了間際にもミスがあり、30対32で試合終了。点差を広げられるチャンスに自らのミスでリズムを崩してしまった。このような試合を勝ちに持っていくことが今後のチームの課題となりそうだ。

◆ 8/13（木）

日本代表 28 (10-14,18-11) 25 ITERS (フランス)

各国の代表候補選手をずらりと揃える地元のイストル。昨シーズンのフランス選手権（全日本総合選手権と同様の大会）の優勝チームである。

立ち上がり、相手のエースのミドル、ポストと連続失点で0対2とされると、6分過ぎにも3連続失点で3対6とリードされる。日本は高智・武田の速攻で6対7と1点差に追いつくが、18分、退場者を出してしまうと4連続失点で7対12と5点差をつけられる。その後、新・末松・武藤の3連続得点で10対12とするが、前半終了間際にも連続失点で10対14と4点ビハインドで折り返す。

後半、谷村が豪快なミドルシュートを決めチームを盛り上げると豊田・崎前・門山の3連続得点で14対16の2点差に。中盤、両チームとも退場者を出し、得点の奪い合いとなるものの徐々に当たり慣れしてきた選手は、疲れの見える相手に対し積極的なディフェンスでミスを誘い、新・猪妻らが速攻で得点を挙げる理想的な試合を展開する。残り5分を切り、末松のサイドシュートで25対25の同点に追いつくと、武藤のポスト、猪妻の連続サイドと4連続得点で28対25とし、逆転で勝利をおさめた。

高さや重さを兼ね備えた相手に対して、当たり負けすることがなくなってきた。これまでのフィジカル・ラントレーニングの成果が少しずつ出てきているように思う。明日のアルジェリア戦も同様の戦いを期待したい。

◆ 8/14（金）

日本代表 23 (12-12,11-13) 25 アルジェリア

仮想中東として戦ったアルジェリア。立ち上がり、アルジェリアの高いディフェンスに対して連続ミスで0対2とされるが、GK高木の連続セーブにも助けられ、岸川・新らの得点で6分には4対3と1点リード。中盤は両チームともオフェンスでのミス